

令和５年度 神戸町財務書類（統一的な基準）

１．地方公会計の目的

地方財政の状況が厳しさを増す中で、財政の透明性を高め、住民や議会などに対する説明責任を果たすことの重要性が高まっています。

平成２７年１月に総務省から「統一的な基準に基づく地方公会計マニュアル」が示され、平成２９年度までに「統一的な基準に基づく地方公会計」の導入が要請されました。そこで、当町では、平成２８年度決算から「統一的な基準に基づく地方公会計」を導入し、財務書類を作成することにしました。

２．対象とする会計の範囲

一般会計	一般会計等 財 務 書 類	全体会計 財務書類	連 結 財務書類
特別会計			
障がい福祉サービス事業特別会計			
学校給食事業特別会計			
国民健康保険特別会計			
後期高齢者医療特別会計			
公共下水道事業特別会計			
公営企業会計			
水道事業会計			
一部事務組合等			
安八郡広域連合			
大垣消防組合			
大垣衛生施設組合			
大垣輪中水防事務組合			
岐阜県市町村会館組合			
岐阜県後期高齢者医療広域連合			
西南濃粗大廃棄物処理組合			
西濃環境整備組合			
西美濃さくら苑介護老人保健施設事務組合			
地方三公社			
神戸町土地開発公社			

3. 貸借対照表（令和6年3月31日現在）

町がどれだけの資産や負債を有しているのか、資産をどのような財源（負債と純資産）で賄ったかを表したものです。負債は、今後負担すべき債務であることから将来世代の負担を、純資産は、現在までの世代や国・県が負担した、将来返済しなくてよい資産を表したものです。

（単位：百万円）

資産の部				負債の部			
科 目	一般会計等	全体会計	連結	科 目	一般会計等	全体会計	連結
1. 固定資産	19,770	23,826	25,450	1. 固定負債	4,897	5,297	5,836
有形固定資産	18,199	22,253	23,436	地方債等	3,862	3,862	4,213
事業用資産	11,877	11,877	12,990	長期未払金	0	0	0
インフラ資産	6,126	9,387	9,391	退職手当引当金	1,035	1,035	1,220
物品	795	2,817	3,485	損失補償等引当金	0	0	0
無形固定資産	38	38	43	その他	0	400	403
投資その他の資産	1,534	1,535	1,976	2. 流動負債	581	693	768
2. 流動資産	2,621	3,381	4,044	1年以内償還予定地方債等	446	446	500
現金預金	356	1,054	1,696	未払金	0	90	91
未収金	31	90	106	未払費用	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	前受金	0	0	0
基金	2,234	2,234	2,239	前受収益	0	0	0
棚卸資産	0	5	6	賞与等引当金	71	74	91
その他	0	0	0	預り金	64	64	64
徴収不能引当金	0	△3	△3	その他	0	21	22
				負債合計	5,477	5,990	6,604
				純資産の部			
				純資産合計	16,914	21,217	22,911
資産合計	22,391	27,207	29,494	負債及び純資産合計	22,391	27,207	29,494

令和5年度末の資産の総額は22,391百万円（一般会計等）・27,207百万円（全体会計）・29,494百万円（連結）、負債の合計は5,477百万円（一般会計等）・5,990百万円（全体会計）・6,604百万円（連結）、資産と負債の差額である純資産は16,914百万円（一般会計等）・21,217百万円（全体会計）・22,911百万円（連結）となりました。

【貸借対照表からわかること】

- ・どのような資産をどれくらい保有しているか
- ・借金など、将来世代が負担する金額
- ・現在までの世代が負担し、将来世代が負担する必要のない資産の金額

4. 行政コスト計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

資産形成につながらない行政サービスの提供に要した費用を人件費、物件費等など、その性質で表したものです。これらの費用から使用料や手数料などの受益者負担を差し引いたものが「純経常行政コスト」（毎年度継続的に発生するコスト）となります。

また、災害復旧事業費などの臨時損失と資産売却などによる臨時利益の差額を加えたものが、「純行政コスト」となります。費用には現金の支出を伴うもののほかに、減価償却費や退職手当引当金繰入額など、現金の支出を伴わないものも含まれます。

（単位：百万円）

科 目	一般会計等	全体会計	連結
1. 経常費用 A	7,167	8,759	13,386
（1）業務費用	3,863	5,398	6,075
人件費	1,431	1,464	1,729
物件費等	2,393	2,701	3,035
その他の業務費用	39	39	117
（2）移転費用	3,304	3,304	7,254
補助金等	1,621	1,621	2,487
社会保障給付	992	992	4,062
他会計への繰出金	690	690	705
その他	0	0	0
2. 経常収益 B	334	631	715
（1）使用料及び手数料	141	432	501
（2）その他	193	200	214
純経常行政コスト A－B＝C	6,832	6,876	11,474
3. 臨時損失 D	0	0	0
4. 臨時利益 E	0	0	0
純行政コスト C＋D－E＝F	6,832	6,876	11,473

経常費用は、7,167 百万円（一般会計等）・8,759 百万円（全体会計等）・13,386 百万円（連結）となりました。使用料及び手数料等の経常収益は、334 百万円（一般会計等）・631 百万円（全体会計）・715 百万円（連結）となりました。経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、6,832 百万円（一般会計等）・6,876 百万円（全体会計）・11,474 百万円（連結）となりました。また、災害復旧事業費などの「臨時損失」及び資産売却益などの「臨時利益」を含めて算出する純行政コストは、6,832 百万円（一般会計等）・6,876 百万円（全体会計）・11,473 百万円（連結）となりました。

【行政コスト計算書からわかること】

- ・ 行政サービスに要した費用
- ・ 受益者負担などで、どの程度費用が賄われたか

5. 純資産変動計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

貸借対照表に計上されている純資産（現在までの世代や国・県が負担した、将来返済しなくてよい財産）が、どのように増減したかを表したものです。

また、行政コスト計算書の「純行政コスト」が当年度の税収など、受益者負担以外の財源によってどの程度賄われたかについても見ることができます。

本年度末純資産残高は、貸借対照表の純資産合計と一致します。

（単位：百万円）

科 目	一般会計等	全体会計	連結
前年度末純資産残高 A	17,112	24,566	26,218
純行政コスト（△） B	△6,832	△9,640	△14,944
財源 ① + ② = C	6,747	9,509	14,088
税収等 ①	5,458	6,476	9,202
国県等補助金 ②	1,289	3,033	4,886
本年度差額 C - B = D	△85	△130	△149
資産評価差額 H	0	0	0
無償所管換等 I	△10	△10	△10
その他 J	△103	△103	△71
比例連結割合変更に伴う差額 J	0	0	△14
本年度純資産変動額 D + H + I + J = K	△198	△243	△167
本年度末純資産残高 A + K	16,914	24,323	27,686

純行政コスト△6,832百万円（一般会計等）・△9,640百万円（全体会計）・△14,944百万円（連結）から税収などの財源6,747百万円（一般会計等）・9,509百万円（全体会計）・14,088百万円（連結）を差し引いた本年度差額は△85百万円（一般会計等）・△130百万円（全体会計）・△149百万円（連結）となりました。

本年度差額、資産評価差額、無償所管換等及びその他の変動を反映した、本年度純資産変動額は△198百万円（一般会計等）・△243百万円（全体会計）・△167百万円（連結）となり、本年度末純資産残高は16,914百万円（一般会計等）・24,323百万円（全体会計）・27,686百万円（連結）となりました。

【純資産変動計算書からわかること】

- ・純資産はどのように変動したか
- ・行政コストは税収などの財源でどの程度賄われたか

6. 資金収支計算書（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

資金（現金預金）の収支について、その性質に応じて区分し、どのような活動にどれだけの資金が必要であったかを表したものです。

なお、「本年度末現金預金残高」は、貸借対照表の「資産の部」の「現金預金」と一致します。

（単位：百万円）

科 目	一般会計等	全体会計	連結
1. 業務活動収支 $\textcircled{2}-\textcircled{1}+\textcircled{4}-\textcircled{3}=A$	633	374	492
業務支出 $\textcircled{1}$	6,280	7,870	9,566
業務収入 $\textcircled{2}$	6,913	10,293	14,952
臨時支出 $\textcircled{3}$	0	0	0
臨時収入 $\textcircled{4}$	0	0	0
2. 投資活動収支 $\textcircled{6}-\textcircled{5}=B$	△204	△712	△730
投資活動支出 $\textcircled{5}$	688	1,236	1,309
投資活動収入 $\textcircled{6}$	484	524	578
3. 財務活動収支 $\textcircled{8}-\textcircled{7}=C$	△357	336	307
財務活動支出 $\textcircled{7}$	463	699	750
財務活動収入 $\textcircled{8}$	105	1,036	1,057
本年度資金収支額 $A+B+C=D$	72	△2	69
前年度末資金残高 E	220	373	945
比例連結割合変更に伴う差額 F	0	0	0
本年度末資金残高 $D+E+F=G$	292	371	1,013

本年度の資金収支額は、72 百万円（一般会計等）・△2 百万円（全体会計）・69 百万円（連結）となり、本年度末資金残高は 292 百万円（一般会計等）・371 百万円（全体会計）・1,013 百万円（連結）となりました。また、歳計外現金の残高を合わせた本年度末現金預金残高は 356 百万円（一般会計等）・437 百万円（全体会計）・1,079 百万円（連結）となりました。

【資金収支計算書からわかること】

- ・どのような活動にどれだけの資金が必要だったか
- ・年間で資金の増減はどのくらいか

7. 財務書類から算出される指標

※住民基本台帳人口：18,577人（令和6年3月31日現在）

※BS…貸借対照表（Balance Sheet）、PL…行政コスト計算書（Profit and Loss statement）、NW…純資産変動計算書（Net Worth statement）、CF…資金収支計算書（Cash Flow statement）

①資産形成度…将来世代に残る資産はどのくらいあるか？

◎町民一人当たりの資産額

一般会計等：1,205,325円／全体会計：1,464,559円／連結：1,587,664円
※【BS】資産合計/住民基本台帳人口

◎歳入額対資産比率

これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを表します。数値が高いほど、社会資本整備が進んでいると言えます。

一般会計等：2.9年／全体会計：2.23年／連結：1.68年
※【BS】資産合計/（【CF】業務収入＋【CF】臨時収入＋【CF】投資活動収入＋【CF】財務活動収入＋【CF】前年度末資金残高）

◎資産老朽化比率

有形固定資産の償却資産について、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているかを表します。100%に近いほど、老朽化の程度が高いということになります。ただし、資産取得からの経年の程度を表す指標であるため、直接的に老朽化の程度を示しているものではないことに留意が必要です。

一般会計等：64.7%／全体会計：62.4%／連結：61.1%
※【BS】減価償却累計額合計/【BS】取得原価合計（土地、立木竹、建設仮勘定を除く）

②世代間公平性…将来世代と現世代との負担の割合は適切か？

◎純資産比率

町が持つ資産のうち、返済義務のない資産（純資産）の割合、すなわち現世代の負担の割合を表します。この比率が高いほど財政状況が健全であり、低いほど将来世代に負担が先送りされていると言えます。

一般会計等：75.5%／全体会計：78.0%／連結：77.7%
※【BS】純資産合計/【BS】資産合計

◎社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

有形固定資産及び無形固定資産の取得について、地方債をどのくらい借りたかを表します。この比率が高いほど、将来世代の負担が大きいたと言えますが、地方債は原則として将来の世代にも受益の及ぶ施設の建設に充てられること、また地方交付税措置が講じられている地方債があることにも留意が必要です。

一般会計等：24.9%／全体会計：19.4%／連結：18.4%

※【BS】地方債＋【BS】1年内償還予定地方債／【BS】有形固定資産

③持続可能性（健全性）…財政に持続可能性があるか？（どのくらい借入があるか）

◎町民一人当たりの負債額

一般会計等：294,843円／全体会計：322,445円／連結：355,495円

※【BS】負債合計／住民基本台帳人口

④効率性…行政サービスは効率的に提供されているか？

◎町民一人当たりの純行政コスト

一般会計等：367,759円／全体会計：370,129円／連結：617,611円

※【PL】純行政コスト／住民基本台帳人口

⑤弾力性…資産形成を行う余裕はどのくらいあるか？

◎行政コスト対税収等比率（総比率）

税収などの一般財源が、どれだけ資産形成を伴わない行政コストに充てられたかを表します。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いと言え、さらに100%を上回ると過去から蓄積した純資産が取り崩されたことを表しますが、国県補助金で賄われている場合必ずしもそうではないことにも留意が必要です。

一般会計等：101.3%／全体会計：101.9%／連結：81.4%

※【PL】純行政コスト／【NW】税収等

⑥自律性…歳入はどのくらい使用料等で賄われているか？

◎受益者負担率（総負担率）

一般会計等：4.7%／全体会計：7.2%／連結：5.3%

※【PL】経常収益／【PL】経常費用